

(公開学習 II) 第1学年 D組 美術科学習指導案

指導者 水町 信一郎

共同研究者 鳥取大学 地域学部 武田 信吾

場所 美術室

1. 題材名 「作品との対話 ～みる・つながる・感じる～」

2. 美術科の取り組みの概要

美術科研究テーマ

「作品との対話—多様な視点で物事を見つめ、その世界観を深める力—」(3年次)

上記を研究テーマに置いて3年目を迎える。これまで自身が展開してきた授業について考える中で、1つのキーワードとして置いた言葉が「作品との対話」である。「対話」と聞くとアメリア・アレナス氏が提唱した“思考能力、対話能力の向上を目的に実践される対話による美術作品の鑑賞法”(=対話型鑑賞^{註1})が思い出されるが、私は鑑賞に限らず、制作(表現活動)も「対話」と捉えて授業実践を行ってきた。例えば、級友、先輩、後輩の作品に対して、直接的であったり、間接的であったり、方法は様々であったが、自分が感じ取った作品への思いを送る活動は、作品を介した他者との対話と言えよう。また、教科書や直接出会えない作家たちの作品について考える活動も作品(=他者の思い)との対話と考えることができる。制作(表現活動)では、これから描こうとする白い紙、形を作ろうとする素材がなるべく姿、色はなんだろうと自分自身に投げかける表現活動は、作品を介して自分自身の思いを探る私との対話と考えることができる。

美術科には、表現と鑑賞の二領域があり、学習指導要領においては、〔共通事項〕を置くように、表現と鑑賞の一体化も定められている。鑑賞には、自他の作品などについて考えや思いを深く追求する活動があるが、それには、個でじっくりと味わい、考えることのみならず、他者と考えや思いを共有し、高めることが美術教育には求められていると考える。表現も同様のことが言え、自己の満足で終わるものではなく、作品への思いを他者に伝え、共有し、自己の心理を深く見つめ、その世界を表現しようと追求すること(「たくましさ」)が必要であると考える。つまり、鑑賞と表現はどちらも同じく、自分と他者との関係の中で高められるものであると言える。しかし、授業数の減少、表現活動の時間の確保などによって、現状としては、表現と鑑賞が分断化されたうえ、制作活動(表現)に時間を取られ、鑑賞の時間が簡略化されることが多い。そこで、研究としては、鑑賞と表現の流れを一体化した短時間教材の開発、実施をしている。「たくましさ」と「しなやかさ」の両活動がつながり、展開される中で、生徒が、よりよい目標を達成しようと、これまで身に付けた知識、技能を駆使し、また、自己発信、他者理解を繰り返しながら、一方的な見方に捕らわれず、新たな見方を生徒同士が共有しながら「やりくり」の力を身に付けさせたいと考える^{註2}。

註：1：『なぜ、これがアートなの?』、アメリア・アレナス(福の子訳)、淡交社、1998『まなごしの共有 アメリア・アレナスの鑑賞教育に学ぶ』、上野行一監修、淡交社、2001

2：「やりくり」「しなやかさ」「たくましさ」については本校研究概要の総論を参照の事。

3. 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、学習指導要領の以下の点を主とする学習である。

〔共通事項〕(1)ーア「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」

本授業は、個々で主題を設定して描いた線織面の作品を互いに鑑賞し合うことから始まる。自分の言葉で作品について説明、また他者の作品について語る中で、線や形、色彩が持つ力に気付かせたい。その後、各生活班(4～5名)単位で互いの作品の共通項や形の類似点などを見出し、線織面で繋いでいく活動を行う。共同制作を行う中で、個を大事にしながらも1つの作品として、全体を見る活動の中で造形的なよさや美しさを深く理解させたい。クラス全体で共有する発表の場面においても、それぞれの作品の印象を伝えたり、自分たちの作品について語る活動の中で、個々の価値意識を持ち、互いの考えを共有しながら味わう鑑賞の楽しさを実感させたい。

(2) 子どもと教師

本時は、生徒にとって、共同で行う最初の表現活動である。「鑑賞の能力」においては、普段から生活の多くの時間を共有してきた生活班で、個と全体を考えながら、作品の配置、繋げる線の数、角度で、自分の思いを周りの思いと折り合いをつけながら描いていく「やりくり」する姿を授業で目指したい。また、自分だけの一方的な見方ではなく、級友からの新たな視点を共有し、高め合う活動を実践しながら、作品を深く見つめる楽しさに気づかせたい。「発想や構想の能力」においては、それぞれの主題で描いた自他の作品の魅力について、互いの思いを語り合う中で、気づかせたい。また、自他の作品のよさに気づき、どのような表現、配置で繋いでいくのか、全体としての造形表現を楽しみながら発想を広げていく生徒の姿を授業の中で目指したい。

(3) 子どもと教材

1年生は、小学校の図工で培ってきた造形技能を応用し、発展する活動として、「つづく」「奥行き」「グラデーション」といった抽象的な主題を置いて、デザインの基礎表現、色彩の学びを4月当初から展開している。現在は、それらの学びを総括すべく平面構成の作品に取り組んでいる。本題材は、デザインの基礎表現の1つとして扱った「線織面(せんしょくめん)」を発展させたものである。線織面との初めての出会いにおける生徒の反応は、「直線を引いただけなのに様々な表現があることに驚いた。どんどん発展させたい」、「直線を書くだけで人の心を動かせることはとてもすごいと思いました」、「今までなぜ気付かなかったんだろう。もっとこの表現で自分の思いを表したい」など大きなものであった。その線織面を使って、自分なりの主題を持って取り組む本題材は、学びの成長が著しく表れると考える。また、ただ単に自分の主観だけにとどまらず、他者からの作品への印象などを取り入れながら、互いの作品を繋いでいこうと「やりくり」する学びの過程を定着させ、造形的なよさや美しさを追求しようと作品に向かう意欲を高めたい。

4 本時について

(1) 本時の目標

・線の数や角度、色等を考えながら制作する活動を通して、自分らしくのびのびと表現することができる。

【発想や構想の能力】

・自分の作品と他者の作品を組み合わせる活動を通して、互いのよさに気づき、意見をまとめることができる。

【鑑賞の能力】

(2) 期待される生徒の様相

【発想と構想の能力】

A: 想像した世界などを基に主題を生み出し、線や形のもつ効果を考えながら、構想を練り、友達の表現のよさなどに気づき、自己の表現を高めて表現することができる。

B: 主題に基づいて、線や形のもつ効果を考えながら、構想を練り表現することができる。

C: 主題に基づいて、線や形のもつ効果を考えながら、構想を練ろうとしている。

【鑑賞の能力】

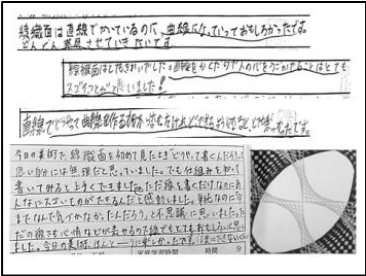
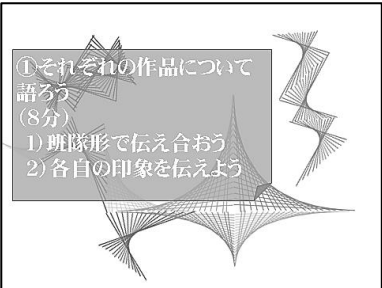
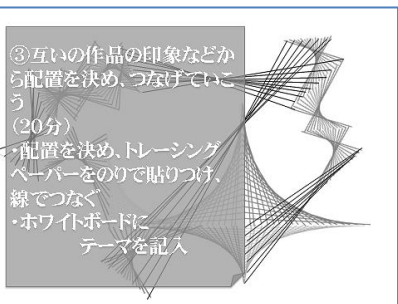
A: 意図や表現の工夫などを想像するなどして、自分の価値意識をもって作品を味わうことができおり、友達の意見を聞くなどの活動を通じてさらに作品の見方を深めることができる。

B: 意図された線や模様、また偶然性による美しさなど、意図や表現の工夫などを想像するなどして、自分の

価値意識をもって作品を味わうことができている。

C: 意図された線や模様などについて着目し、意図や表現の工夫などを想像するなどして作品を鑑賞しようとしている。

(3) 学習の展開

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点○評価 [観点] (方法) ※手立て	時間
1. 学習のめあての把握をする。(5分)		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りや随想を表示し、線織面との出会いを振り返る。 ・パワーポイントで作品を表示し、本時の制作過程を理解させる。 	5/5
2. 自他の作品を鑑賞する。(8分)	<p>○互いの作品紹介をしよう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品について振り返る。 ・生活班を用い、互いの作品を鑑賞し自分の印象も伝える。 	8/13
3. 互いの思いをくみ取りながら折り合いをつける。(20分)	<p>◎互いの作品の印象などから配置を決め、つなげていこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通項を見つける。 ・自他の作品から感じる思いを伝え合い、類似点を見つけつなげていく。  <p>◎全体で共有しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーシングペーパー上に作品を貼り付け、線で繋いでいく。裏面からでも可とする。 ○互いの作品のよさに気づき、意見をまとめようとしている [鑑賞の能力](観察、ワークシート) ※作品からの印象を伝えるように声掛けをする。 ○線のもつ効果を考えながら、心豊かな表現の構想を練っている。 [発想や構想の能力](観察、作品) ※組み合わせの視点として共通点や相違点などを示す。 ・印象に残った作品について発表。それを受けて、制作した班に思いを発表してもらう。 	20/33
4. 本時のまとめをする。(5分)	<p>○今日の活動を振り返ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる思いをつなげる活動が楽しかった。 ・みんなの考えを反映させながら作る過程が面白かった。 ・もっとたくさんの人とつながってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入 ・作品の横にホワイトボードを掲示させる。 	5/50

(4)本時授業資料

pp 1

線織面は直線だけかいてるのよ、曲線もかいておもしろからだよ
 どんぐり 葉をさせていましては
 線織面は花びらみたいな曲線をかいておもしろい代をかがりかいてはとて
 スゴクおもしろいよ！
 線織面は花びらみたいな曲線をかいておもしろい代をかがりかいてはとて
 スゴクおもしろいよ！
 今日の美術で 線織面を初め見たときは、とてもおもしろい
 思い自分には無理だと思いましたが、でも仕組みを知り
 書いてみると上手にできました。ただ線も書くのに自分
 にはスゴクおもしろい感じがしました。単純なのに今
 まで（私）が気づけなかったら、不思議に思いました。た
 だの線でも心が痛む感じがするの、線でもっとおもしろい
 ました。今日の美術 ほんとうに楽しかったです。授業に
 時間 分

pp5

③互いの作品の印象などから配置を決め、つなげていこう (20分)
 ・配置を決め、トレーシングペーパーをのりで貼りつけ、線をつなぐ
 ・ホワイトボードにテーマを記入

pp2

作品との対話
 ~みる・つながる・感じる~
 それぞれの作品(線織面)を通して
 思いをつなげよう

pp6

③各班の思いをクラスで共有しよう(発表)
 作品とホワイトボードを黒板に掲示

pp3

①それぞれの作品について語ろう (8分)
 ②互いの作品の印象などから配置を決め、つなげていこう(20分)
 ③各班の思いをクラスで共有しよう(発表)

pp4

①それぞれの作品について語ろう (8分)
 1) 班隊形で伝え合おう
 2) 各自の印象を伝えよう

ワークシート

1年 美術科

作品との対話
 ~みる・つながる・感じる~

それぞれの作品(線織面)を通して
 思いをつなげよう

1年 組 番 名前

自分の作品について

メモ

振り返り	自分の振り返り	1年 組 番 名前
今日の授業の感想	良かった	良かった
楽しかったこと	良かった	良かった
新しい発見・気づき	良かった	良かった
今日の一言	良かった	良かった